



ケニア

BOP実態調査レポート

環境保護は、各国政府にとって主要な関心事の一つである。ケニアの人々も環境汚染の影響を受けており、環境を今以上に保護したり廃棄物を活用することで、これ以上の汚染を防止する取り組みが必要となっている。

現在、主に金属くず、プラスチック、ガラス、および紙がリサイクルされている。規模は様々であるが、ナイロビやモンバサ、キスム、ナクルなどの都市で、廃棄物のリサイクル活動が行われている。女性団体や青年団体、民間企業が、リサイクル活動に投資を行っており、直接または代理人や一般市民の会員が日常的に参加し、雇用を生み出している。

金属リサイクル

金属くずは、色々な形で発生する。飲料缶から大型の車や機械部品まで、金属くずのリサイクルは多くの都市で成長ビジネスになっている。回収所は、通常、効率化のために住宅地やごみ捨て場の近くにある。一部の地域では、ごみの種類ごとに区別されたごみ箱が置かれ、リサイクルしやすい形でごみが捨てられるようになっている。

金属くずの回収は、多くの若者の雇用を生み出している。推定で約1万人の若者が家庭ゴミや産業廃棄物の中から不要となったアルミや銅、鉄、鋼などを回収している。これらは収集された後に、リサイクル業者により分別や等級づけが行われる。

金属くずが収集所に持ち込まれると、業者が計量し、量に応じて回収者に代金が支払われる。金属1キロ当たりの平均価格は、ナイロビで45 シリング（以下、Ksh）、キスムで35 Ksh、モンバサで50 Kshである。銅の価格はやや高く、業者により、また大きさにより1キロ60 Kshから100 Ksh程度である。受け取り後、金属は磁石により鉄・鋼と他の金属に分けられ、さらに分類して類似の金属を1つに集める。この時点で、各種金属は別々に圧縮されるなどして再生業者に売り渡される。





古紙リサイクル

古紙を利用してティッシュペーパーや梱包容器、装飾品、壁紙などを作るのは、最も古い形のリサイクルである。ケニアでも、古紙はリサイクルの重要な一部となっている。金属の場合と同様、特に主要都市の住宅地や主なゴミ捨て場の近くに収集所が設けられている。紙くずが多く発生する出版社や印刷業者などと特別な契約を結ぶリサイクル業者もある。

回収された古紙は重量に応じて料金が支払われる。2013年初時点の平均価格は、ナイロビで1キロ当たり25 Ksh、モンバサとキスムも同様であった。古紙として新聞と段ボールが好まれる。計量後、紙の品質や状態（細断されているか、色付きかどうかなど）に応じてさらに分類される。その後ペール梱包され、または細断されている場合は箱詰めにしてリサイクル業者に買い取られる。



ガラス・リサイクル

ガラスのリサイクルはボトリング会社のためと考えられ、長い間人々から受け入れられなかったが、ボトリング会社が奨励策を採るようになると、次第に変化が見られ、程度は様々であるが、人々に受け入れられるようになった。ガラスや廃ガラスの回収も、金属やプラスチックと同様に行われている。バーやパブなどの娯楽施設と組み、最少額を支払って使用済みボトルを買い取っている回収業者もある。

回収されたガラスは、ビンの種類や割れの有無、色ごとに分けられる。次に等級付けされ、等級に応じて料金が支払われる。ビールやソーダのビンのように溶解しなくてもそのままリサイクルできるビンは、ビンとしての価格（平均10 Ksh）が支払われる。それ以外は品質別に粉碎され、計量され重量で金額が決まる。等級に分けられたガラスは梱包され、リサイクル業者に渡される。



ペットボトル・リサイクル

ペットボトルは他の多くの国と同様に増えており、特に飲料業界で使われている。回収者にとって娯楽スポットが重要な場所となるが、住宅地やゴミ捨て場でもペットボトルが集められている。回収されたペットボトルは収集所に持ち込まれ、そこで仲買人が計量する。料金の支払いはキログラム単位で行われ、ナイロビやモンバサ、ナクルでは平均15 Kshである。計量後、色別に分類され、潰され、梱包されてリサイクル業者に買い取られる。



JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。